

株主の皆さまへ

第157期中間事業報告書

平成16年1月1日から平成16年6月30日まで



ごあいさつ



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
都市ガス業界では、自由化された大口ガス供給の範囲が一段と拡大しています。本年4月には大口の対象となるお客さまのガス使用量は、それまでの年間100万m³以上から年間50万m³以上へと引き下げられました。自由化の進展は電力業界においても加速しており、都市ガスや電力などのエネルギー業界は厳しい競争と選別の時代を迎えています。

このような中、当社では天然ガスの環境優位性を活かし、ガス販売量の拡大に積極的に努めてまいりました。この結果、当中間期のガス販売量は、前年同期に比べ7.8%増加し、当中間期の連結売上高は31,682百万円（前年同期比3.7%増）、連結中間純利益は3,614百万円（前年同期比12.6%増）を計上することができました。

また、中間配当金は、株主の皆さまのご期待に応え、1株につき3円50銭といたしました。

今後も天然ガスを通して地域の発展と環境保全に貢献し、お客さまや社会、株主の皆さまの信頼と期待にお応えしてまいります。何卒一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 大石 司朗

目 次

特集 着実に進むガス供給インフラの整備.....	1	連結財務諸表.....	12
特集 安全・確実に都市ガスをお届けするために.....	4	単体財務諸表.....	15
トピックス.....	6	株式の状況.....	16
商品・サービスのご紹介.....	8	会社概要.....	17
当中間期の業績.....	10		

着実に進むガス供給インフラの整備

～ 「第二駿河幹線」の完成と「南富士幹線」の着工 ～

静岡ガスでは、増大する天然ガス需要に対応するため、天然ガス供給インフラを整備し、輸送能力の向上と安定供給の確保に努めています。その大きな柱の一つが、将来に向けた基幹パイプラインの整備です。

本年7月には、2000年10月から約4年の歳月をかけて建設を進めてきた高圧ガスパイプライン「第二駿河幹線」(静岡市～富士市)が完成しました。

さらに、静岡ガス、帝国石油(株)、東京ガス(株)のパイプラインが結合する「広域パイプラインネットワーク」構築に向けた「南富士幹線」(富士市～御殿場市)の建設工事が、本年5月に開始されました。



高圧パイプラインの二重化「第二駿河幹線」

「第二駿河幹線」は、静岡市清水にあるLNG受入基地から産業用需要が集中する富士市までを結ぶ、全長28kmの高圧パイプラインです。第二駿河幹線の完成により、これまで「駿河幹線」のみであった静岡県東部地域への輸送幹線が二重化され、ガスの供給安定性と輸送能力が格段に向上しました。

第二駿河幹線は、山岳部や河川の下を通るトンネル内の配管が全体の44%を占めています。既存の駿河幹線と離れたルートを取ることで、災害発生時に2本の輸送幹線が同時に損傷しないようにするためです。また、幹線道路での長期間の工事による交通渋滞などの影響を考慮した結果でもあります。



輸送導管建設現場（由比トンネル東坑口）



傾斜管での溶接施工

高度な技術を駆使して順調に施工

山岳部にガス管専用トンネルを掘って配管を敷設する工事は、静岡県内で初めての工事となりました。長さ4kmを超えるトンネル掘削工事は、全国でも非常にまれなもので、長期にわたる大規模な作業となりました。河川部は、川底の下を専用のシールドトンネルで横断。富士川の川底約16mを横断するシールドトンネルは、下地盤が非常に硬く困難な工事となりましたが、立杭の構築や推進方法（シールド工法）に高度な技術を駆使して、順調に施工されました。

また、配管は米国石油協会規格によるパイプライン鋼管を使用。予想されている東海地震にも耐えることができる頑丈な材質のもので、すべて溶接で接合しています。



ガス配管の挿入風景



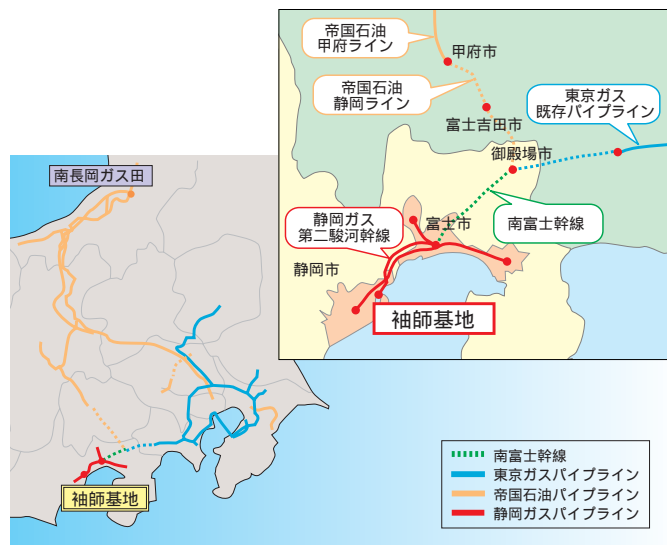
トンネル内配管点検

天然ガスの広域ネットワークを構築「南富士幹線」

2002年10月、帝国石油(株)、東京ガス(株)、当社の3社は、天然ガスの広域ネットワークを形成するため「南富士幹線」の建設について合意し、2003年10月にパイプラインの建設・運営を行う「南富士パイプライン(株)」を設立しました。

南富士幹線は、富士 - 御殿場間を結ぶ全長31kmの高圧輸送パイプラインで、2006年に完成予定です。静岡ガスの第二駿河幹線と帝国石油の「静岡ライン」(山梨県甲府市郊外～御殿場市、現在建設中)とを結ぶ南富士幹線は、将来は東京ガスのパイプラインにも接続される予定で、甲信越、静岡、関東圏を結ぶ天然ガスの広域ネットワークが構築されます。

広域パイプライン構想の概要



建設工事を開始

本年5月26日、南富士幹線の起工式が富士市で行われ、工事が開始されました。予定ルートには、交通量が多い道路や富士山裾野の岩盤地帯を通る地域など、困難な工事が予想される部分もありますが、安全かつ着実に建設を進めていきます。



起工式

安全・確実に都市ガスをお届けするために

～ 最新の幹線制御システムでガスの送出を管理 ～

お客さまのもとへ安全かつ確実に都市ガスをお届けするためには、万全な生産・供給管理体制の構築が欠かせません。静岡ガスでは、第二駿河幹線の完成にあわせて、最新の幹線制御システムを導入し、7月から運用を開始しました。

幹線制御システムによる監視・コントロール

静岡ガス「生産・供給管理センター」では幹線制御システムにより、都市ガスの生産から供給までを365日24時間体制で一元管理しています。

生産・供給管理センターは、遠隔制御によって、第二駿河幹線をはじめとする当社の主要パイプラインを流れるガスの圧力や流量、ガスホルダーの貯蔵量などを

監視しながら、送出コントロールを行っています。

また、供給エリア内に設置された数多くの地震計から、地震情報を自動的に受信。これらの情報は一元的に管理され、必要な情報を迅速に把握することが可能です。



コントロール室



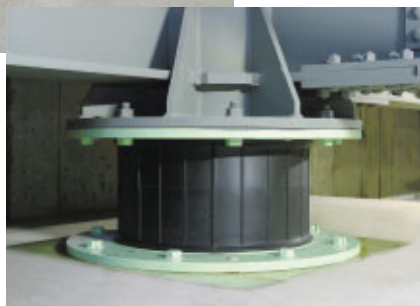
本社東館

事故や災害に備えた万全の対策

幹線制御システムは、都市ガス供給の中枢を担う基幹システムであることから、免震構造の本社東館に設置しました。また、重要なコンピュータシステムは、縦揺れを吸収できるように床免震構造を採用しています。さらに、機器や遠隔制御システムは二重化され、遠隔制御には、地上設備が被害を受けたときにも有効に機能するように衛星無線を使用するなど、事故や災害に対して万全の対策を施しています。



床免震構造

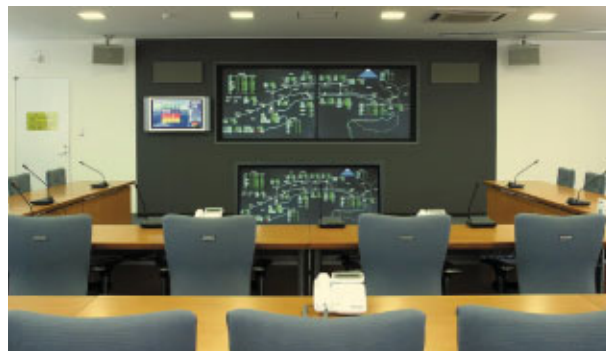


免震構造

建物の基礎部に、積層ゴムが設置され、地震時の横揺れを吸収します。

非常災害時の指令拠点「災害対策本部」

大規模地震等の発生時には、生産・供給管理センターと同じフロアに「災害対策本部」が設置されます。本部室には、現状を迅速に把握できるように、生産・供給管理センターで管理される主要パイプラインの供給状況や、被害情報を大型スクリーンに表示。スピーディーで適切な対策を検討・指示する、指令中枢拠点となります。



災害対策本部室

LNG受入量、200万トン達成 ~環境問題への対応から天然ガスの需要が増大~

当社のLNG（液化天然ガス）の受入量が、2004年7月24日、累計で200万トン達成しました。当社の都市ガス製造部門を担う清水エル・エヌ・ジー（株）袖師基地では、1996年6月より、マレーシアから船によるLNG受入れを開始してきました。そして2004年7月24日、通算54隻目のLNG船となるブテリ・ニラム（マレーシア語で「サファイア姫」の意味）号の受入れによって、LNG船によるLNG受入量が累計200万トン達成しました。

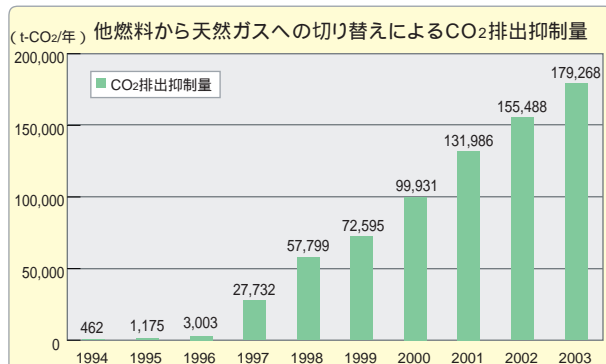
当社が、都市ガス原料としてクリーンエネルギー天然ガスを導入して以来、環境問題への対応などから、産業用のお客さまを中心に、都市ガスの需要は飛躍的に伸びています。それに合わせLNG受入量も増加、100万トン達成（2001年7月）には約5年を要しましたが、100万

トンから200万トンまではそれを大幅に短縮し、約3年での達成となりました。

今後も静岡ガスは、天然ガスの普及拡大を通して、環境保全への貢献に努めていきます。



2004年分は、7月24日分までの合計です。



静岡ガスでは、LPガスや重油など、都市ガス以外の他燃料をご使用の工場を中心に、CO₂排出量の少ない天然ガスの普及拡大に努めています。さらに、高効率で省エネルギー性に優れたガスコージェネレーションシステムをご採用いただくことで、多くの工場でCO₂排出量の抑制を実現しました。

その結果、他燃料から天然ガスへの切り替えによるCO₂排出抑制量は、1年あたり約18万トンとなりました。

燃料電池の実証試験がスタート ~燃料電池の実用化に向けて~

静岡市内の家庭に1kWの燃料電池が設置され、燃料電池の実用化に向けた本格的な実証試験がスタートしました。

実証試験は、(財)新エネルギー財団が実施している経済産業省の補助事業に(社)日本ガス協会が参加して行われるものです。日本ガス協会は、全国10カ所の一般家庭などに固体高分子型燃料電池を設置し、データ収集を実施。静岡市内の当社社員宅がその1カ所として対象となりました。

燃料電池は、都市ガスなどから得られる水素と空気中の酸素の化学反応により、電力を発生させる発電装置で、高い発電効率と排熱の有効利用が可能です。わが国でも地球温暖化などの環境問題への取り組みから、優れた環境性を持つ燃料電池の早期実用化に向けて研究開発が進められています。

実証試験では、今後1年間程度、実用化に向けて省エネ性や経済性を向上させるための情報収集が行われます。燃料電池の実用化に向けた取り組みが、着実に進んでいます。



クリーンな排気で今年も天然ガス自動車が先導 ~第29回静岡駿府マラソン~

3月7日、第29回静岡駿府マラソンが開催されました。暖かな陽射しの下、総勢約8,500人のランナーが参加。ハーフマラソン、10km、5km、小学生の4部門に分かれ、その健脚を競いました。

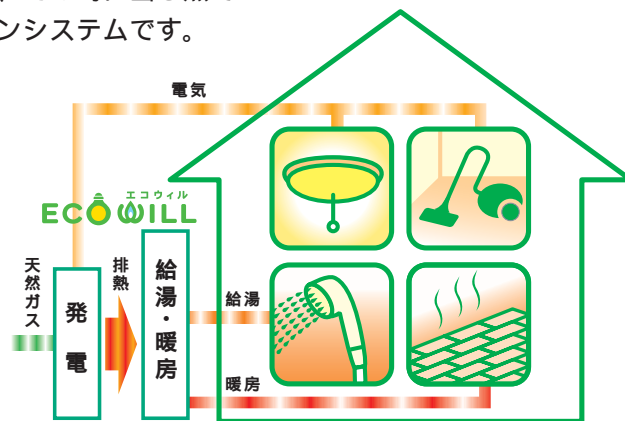
先導車及び時計車は今年も当社の天然ガス自動車を務めました。天然ガス自動車は黒煙を出さず、NO_xなどの有害物質の排出も極めて少なくとてもクリーン。選手の力走に貢献しました。



ガスでマイホーム発電 ECOWILL

ガス発電・給湯暖冷房システム

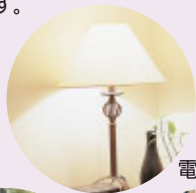
エコウィルはクリーンなエネルギー天然ガスで発電し、その時に出る熱で給湯も暖房もできる、家庭用ガスコージェネレーションシステムです。



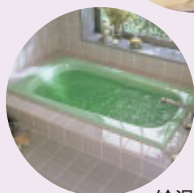
快適性

1台で3役

ご家庭の電気、給湯や全自動風呂、床暖房や浴室暖房乾燥など、1台で電気・給湯・暖房の3役をまかなえ、快適な暮らしをお届けします。



電気



給湯



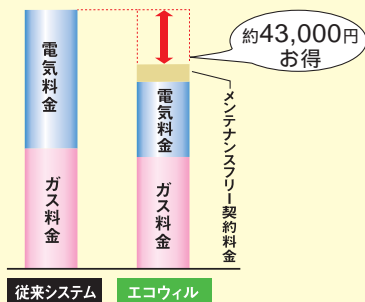
暖房

経済性

光熱費を年間約43,000円削減

エコウィルには、お得なガス料金プラン「新世快」が適用できます。例えば、床暖房を2室に設置した場合、光熱費が年間約43,000円節約できます。

■1年間のランニングコスト比較
(戸建住宅4人家族での当社想定パターンにて算出)

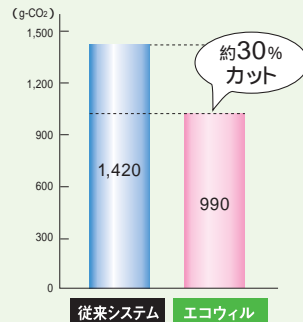


環境性

CO₂排出量を約30%カット

発電時に発生する排熱を給湯や暖房に有効利用するため、CO₂排出量を従来よりも約30%削減でき、環境保全にも貢献します。

CO₂排出量
(エコウィルの発電1kWh当たりでの比較)



くらべれば、ガス

～エネルギーの上手な選び方～

ガス ファンヒーター

VS

電気 / 灯油 ファンヒーター



点火しようとしたら、
燃料切れ。寒いから給油
するのもおっくうじゃ。

スイッチを入れても、
なかなか暖まらない...。
冷たい手、早く暖めたい
のに。



点火した時のあの
イヤな臭い、どうにか
ならないものかしら....

こんな悩みも
ガスファンヒーターなら
解決!!



リンナイ RC-390NP

給油不要

面倒な灯油の買出し、給油の手間がないので、いつでも手軽にポカポカです。

パワフル&スピーディー

スイッチを入れてから5秒で温風。
ガスならではのパワフルさで、
お部屋をスピーディーに暖めます。

クリーン

点火・消火時のイヤな臭いも気になりません。空気清浄や除菌イオン機能付きもあり、1年中お部屋を清潔に保ちます。

美しさと機能性を追求した

ガラストップコンロ



ハーマン C3WB2PDTS6ST

見た目の美しさだけでなく、お手入れのしやすさ、先進の機能と安全性を備えた、ワンランク上のコンロをご提案します。

グリル活用術

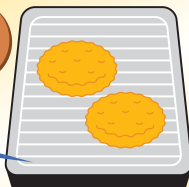
基本編 揚げ物の温め直し

冷めてしまった揚げ物の温め直しに、グリルが大活躍!! 表面の水分だけを高温で蒸発させ、中の水分は閉じ込めるので、電子レンジとは違う揚げたてのサクサク感を味わえます。

両面焼グリル
約6分
(2枚)

片面焼グリル
約9分
(2枚)

水入れタイプは
グリル皿に
水を入れる。



網のせ弱火で温めます。
(片面焼の場合は途中で裏返す)



衣はサクサク、カリッ!
中はホクホク。

当中間期の業績

(金額は単位未満を切り捨てております)

当中間期の売上高は、ガス売上高の増加や空調機器等の販売増等により、前年同期比3.7%増の316億円となりました。

営業利益は、前年同期に比べ円高により原料費が低く推移したことや経費の発生遅れ等により、26.8%増の64億円、経常利益は、有利子負債の減少

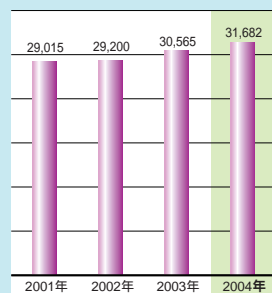
により支払利息が減少し、30.2%増の60億円となりました。

また、土地売却益を計上した前年同期に比べ特別利益が減少したため、中間純利益は、12.6%増の36億円となりました。

	2004年6月期	2003年6月期	増減率
売上高	316億円	305億円	+3.7%
営業利益	64億円	50億円	+26.8%
経常利益	60億円	46億円	+30.2%
中間純利益	36億円	32億円	+12.6%

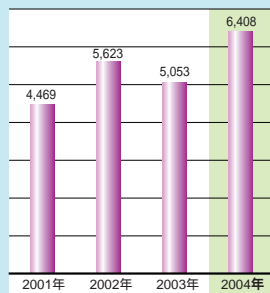
売上高

(単位:百万円)



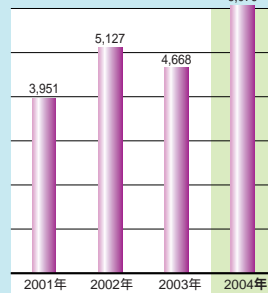
営業利益

(単位:百万円)



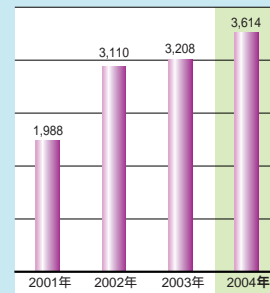
経常利益

(単位:百万円)



中間純利益

(単位:百万円)



各セグメントの業績

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

< ガス事業 >

お客さま戸数は、他燃料との競合が激化する中、新規お客さまの獲得に努め、グループ全体で当中間期中に2,652戸増加し、当中間連結会計期間末には330,643戸となりました。

ガス販売量は、冬季の気温が高めに推移したことによる影響で、家庭用では1戸あたりの平均使用量の減少により前年を下回りました。一方、工業用では、既存のお客さまの堅調な稼働に加え、新規需要の獲得などにより増加したこと、また、業務用では、空調需要が好調だったこと、さらに近隣都市ガス事業者への卸供給が順調に増加したことにより、ガス販売量全体では前年同期に比べて7.8%増の263,868千m³となりました。

ガス売上高は、ガス販売量の増加等により、前年同期に比べて3.2%増の22,927百万円となりました。また、原料費が低下したため、営業利益は21.0%増の7,292百万円となりました。

< 受注工事及びガス機器事業 >

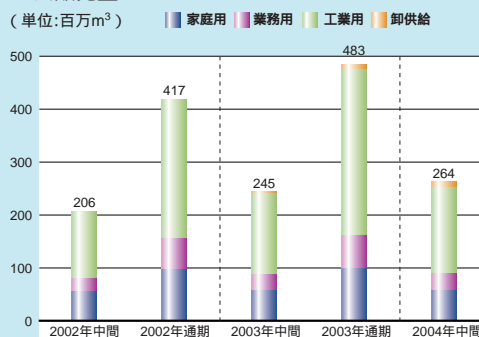
受注工事及びガス機器事業につきましては、グループ外への空調機器等の機器販売は好調だったものの、セグメント間（グループ内）の取引高が減少した結果、売上高は前年同期に比べて1.6%減の6,567百万円となりました。それにともないセグメント間の取引の営業費用も減少したため、営業利益は38.4%増の304百万円となりました。

< その他の事業 >

その他の事業につきましては、グループ外への設備工事等が好調だったものの、セグメント間のプラント工事等が減少した結果、売上高は前年同期に比べて5.8%減の7,241百万円となりました。また、LPGの原価が減少したことにより営業費用が減少したため、営業利益は前年同期に比べて22.4%増の561百万円となりました。

ガス販売量

(単位:百万m³)

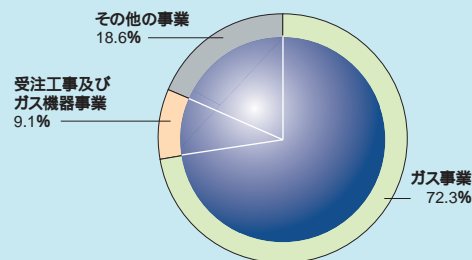


事業のセグメント

各セグメントに属する主要な事業内容は、以下のとおりです。

ガス事業	都市ガスの製造、供給、販売
受注工事及びガス機器事業	ガス工事の施工 ガス機器の販売
その他の事業	LPG及びLNGの販売 車両、事務機器等のリース 空調工事の施工 住宅設備機器の販売、施工 不動産の賃貸

セグメント別売上高構成比



(注) 売上高の構成比は、外部顧客に対する売上高に基づいております。

連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 6月30日現在)	前期 (2003年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	94,876	94,041
1 有形固定資産	82,981	83,480
製造設備	28,006	29,505
供給設備	27,831	28,570
業務設備	4,526	4,534
附帯事業設備	6,743	6,951
建設仮勘定	15,873	13,917
無形固定資産	1,060	989
2 投資その他の資産	10,833	9,570
流動資産	11,614	14,655
現金及び預金	3,351	5,421
受取手形及び売掛金	4,351	4,935
たな卸資産	1,755	2,431
その他	2,156	1,867
繰延資産	1,039	1,050
資産合計	107,530	109,746

point 1 清水 - 富士間の輸送幹線「第二駿河幹線」(2004年7月完成)等の設備投資を行う一方、製造設備の償却が進みました。

point 2 株価の上昇により、保有株式の時価評価が増加しました。

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 6月30日現在)	前期 (2003年12月31日現在)
(負債の部)		
固定負債	49,288	52,083
3 長期借入金	44,528	47,752
その他	4,759	4,331
流動負債	22,671	26,255
3 1年以内に期限到来の固定負債	12,141	12,514
買掛金	978	2,950
3 短期借入金	1,940	2,015
未払金	3,052	4,313
その他	4,558	4,461
引当金	879	914
負債合計	72,838	79,253
(少数株主持分)		
少数株主持分	3,403	3,186
(資本の部)		
資本金	4,183	4,183
資本剰余金	2,009	2,009
利益剰余金	21,932	18,661
その他有価証券評価差額金	3,169	2,458
自己株式	7	5
4 資本合計	31,287	27,307
負債、少数株主持分及び資本合計	107,530	109,746

point 3 有利子負債が3,671百万円減少しました。

point 4 株主資本が3,980百万円増加しました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 1月 1日 - 2004年 6月30日)	前中間期 (2003年 1月 1日 - 2003年 6月30日)
5 売上高	31,682	30,565
売上原価	15,342	15,156
売上総利益	16,339	15,408
供給販売費及び一般管理費	9,931	10,354
営業利益	6,408	5,053
営業外収益	227	223
営業外費用	557	607
経常利益	6,079	4,668
特別利益	141	954
特別損失	45	79
税金等調整前中間純利益	6,176	5,543
法人税、住民税及び事業税	2,212	2,054
法人税等調整額	20	72
少数株主利益	369	352
中間純利益	3,614	3,208

中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 1月 1日 - 2004年 6月30日)	前中間期 (2003年 1月 1日 - 2003年 6月30日)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	2,009	2,009
資本剰余金中間期末残高	2,009	2,009
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	18,661	15,202
利益剰余金増加高	3,614	3,208
中間純利益	3,614	3,208
利益剰余金減少高	343	269
配当金	282	212
役員賞与	61	57
利益剰余金中間期末残高	21,932	18,141

point 5 業務用や卸売が増加しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 1月 1日 - 2004年 6月30日)	前中間期 (2003年 1月 1日 - 2003年 6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	6,176	5,543
減価償却費	4,449	4,680
繰延資産の償却費	159	156
有形固定資産除却損	96	211
投資有価証券評価損	—	35
退職給付引当金の増減 額	101	71
ガス熱量変更引当金の増減 額	34	21
受取利息及び受取配当金	70	47
支払利息	548	601
有形固定資産売却損益 ()	51	881
売上債権の増 減額	543	25
たな卸資産の増 減額	675	439
仕入債務の増減 額	2,048	1,269
未払消費税等の増減 額	214	131
その他	495	119
小計	10,062	9,339
利息及び配当金の受取額	77	42
利息の支払額	577	619
法人税等の支払額	1,916	1,033
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	7,646	7,728

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 1月 1日 - 2004年 6月30日)	前中間期 (2003年 1月 1日 - 2003年 6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形・無形固定資産の取得 による支出	5,887	6,080
有形・無形固定資産の売却 による収入	45	1,001
投資有価証券の取得による支出	2	504
投資有価証券の売却等による収入	66	3
繰延資産の取得による支出	148	882
その他	322	433
6 投資活動によるキャッシュ・フロー合計	5,604	6,028
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減 額	75	2,485
長期借入れによる収入	2,700	3,030
長期借入金の返済による支出	6,296	6,475
配当金の支払額	281	211
少数株主への配当金の支払額	151	137
その他	1	0
7 財務活動によるキャッシュ・フロー合計	4,105	1,309
現金及び現金同等物の増減 額	2,063	390
現金及び現金同等物の期首残高	5,321	6,253
8 現金及び現金同等物の中間期末残高	3,258	6,643

point 6 今後の天然ガス拡販に向けて、「第二駿河幹線」をはじめとする設備投資を行いました。

point 7 金融機関からの借入れが減少しました。

point 8 手許資金を削減し、投資活動や財務活動に充てました。

単体財務諸表

中間貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 6月30日現在)	前期 (2003年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	63,603	60,717
有形固定資産	49,026	47,897
無形固定資産	836	776
投資その他の資産	13,740	12,044
流動資産	8,859	11,701
資産合計	72,463	72,418
(負債の部)		
固定負債	30,440	30,644
流動負債	17,190	20,180
負債合計	47,630	50,825
(資本の部)		
資本金	4,183	4,183
資本剰余金	2,009	2,009
利益剰余金	15,491	12,958
その他有価証券評価差額金	3,155	2,448
自己株式	7	5
資本合計	24,832	21,593
負債・資本合計	72,463	72,418

中間損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	当中間期 (2004年 1月 1日 - 2004年 6月30日)	前中間期 (2003年 1月 1日 - 2003年 6月30日)
売上高	25,347	24,249
営業利益	3,884	2,664
経常利益	4,199	2,916
税引前中間純利益	4,199	3,660
中間純利益	2,852	2,470
前期繰越利益	577	504
中間未処分利益	3,430	3,053

株式の状況

(2004年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数 240,000,000株

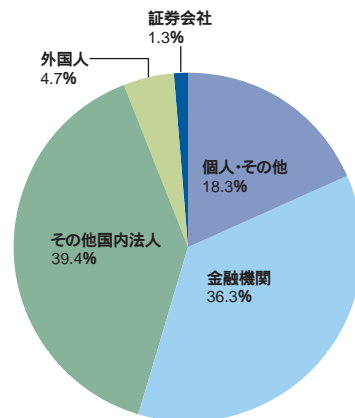
発行済株式の総数 70,692,950株

株主数 2,255名

大株主(上位10名)

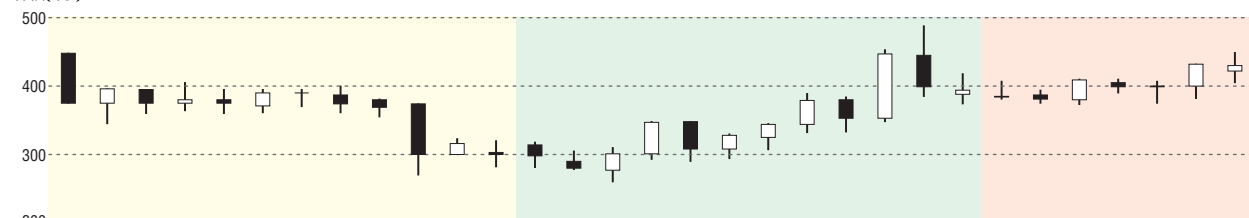
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,112	5.81
第一生命保険相互会社	3,987	5.63
エスジー保険サービス株式会社	3,863	5.46
三菱商事株式会社	3,768	5.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,146	4.45
東京電力株式会社	3,000	4.24
東京瓦斯株式会社	3,000	4.24
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	2,820	3.98
株式会社静岡銀行	2,682	3.79
鈴木株式会社	2,543	3.59

所有者別株式分布状況

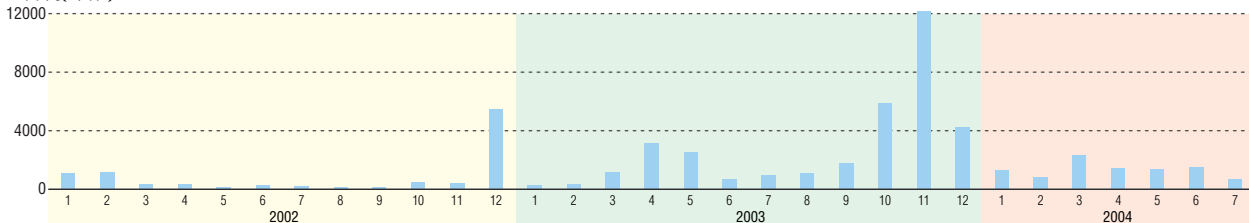


株価及び出来高の推移

株価(円)



出来高(千株)



会社概要

(2004年6月30日現在)

会社名 静岡瓦斯株式会社

設立 1910年(明治43年)4月16日

資本金 4,183百万円

従業員数 単体：681名 連結：1,189名

事業所

本社 静岡市八幡1-5-38

静岡支店 静岡市八幡1-6-1

清水支店 静岡市清水江尻台町22-33

富士支店 富士市荒田島町10-52

沼津支店 沼津市西条町17-6

三島支店 三島市清住町2-8

連結子会社

清水エル・エヌ・ジー(株) (LNG基地運営及びガスの製造、販売)

吉田ガス(株) (都市ガス事業)

下田ガス(株) (都市ガス事業)

信州ガス(株) (都市ガス事業)

佐渡ガス(株) (都市ガス事業)

袋井ガス(株) (都市ガス事業)

中遠ガス(株) (都市ガス事業)

静岡ガスエネルギー(株) (LPガス事業)

エスジークレジットサービス(株) (リース事業)

静岡ガスリビング(株) (住宅設備機器の販売ほか)

静岡ガス・エンジニアリング(株) (導管工事・プラント工事)

静岡ガスサービス(株) (ガス配送業務ほか)

静岡ガス・システムソリューション(株) (情報処理業務・システム開発)

役員

代表取締役会長 大石 繁

代表取締役社長 大石 司朗

専務取締役 岩崎 清悟

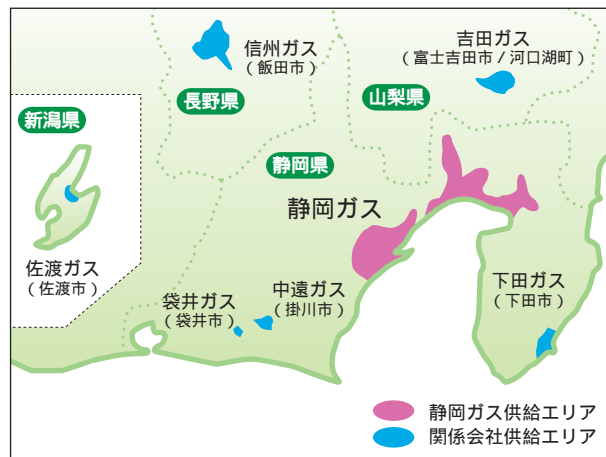
常務取締役 上野 健二郎 石川 順哉
澤村 潔 浅井 一省
森田 和人

取締役 佐塚 一仁 宮坂 広志
曾根 真人 戸野谷 宏
杉山 寛 前野 克己
遠藤 正和 湯原 章郎
宮村 惣三郎 松浦 康男

常勤監査役 河合 静雄

監査役 加藤 明德 角谷 晃
野末 寿一

静岡ガスグループ 都市ガス供給エリア



株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
配当金受領株主 確定日	利益配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年6月30日
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号
事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 03-3323-7111 各種手続き用紙のご請求は、下記のフリーダイヤルまたは ホームページをご利用ください。 フリーダイヤル 0120-87-2031 URL http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html/
取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
決算公告掲載	静岡ガスホームページに掲載 http://www.shizuokagas.co.jp/html/kabu/koukoku.html/
その他公告掲載	日本経済新聞
1単元の株式数	1,000株
証券コード	9543



静岡ガス株式会社

〒422-8688 静岡市八幡1-5-38
TEL 054-284-4141(代表)
<http://www.shizuokagas.co.jp/>



古紙配合率100%再生紙を使用